

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)新潟市中央区米山三丁目計画 新潟県新潟市中央区米山三丁目584番5 商業地域、準防火地域 集合住宅 2019年3月 竣工 1,343.06 m ² 571.58 m ² 6,320.38 m ² 地上15階 RC造 実施設計段階評価 2017年5月18日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

<p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{50.5}{38.2} = 1.3$
--	----	--

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.3		バリアフリー計画	3.0
			維持管理	4.0
			設備の更新性	2.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.9		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物外皮の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	3.3		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	3.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 行政指導規模の雨水貯留槽(任意設置)及び地下湧水ピットにより、新潟市の過去最大1日降雨量を貯留可能とし、雨水排水負荷の低減に配慮しました。
- 住宅性能表示制度の断熱等性能等級4に相当する高水準の断熱性を確保し、建物の熱負荷抑制に配慮しました。
- 節水型便器を採用し、水資源の浪費抑制に配慮しました。
- 敷地前面のバス停待合者が利用できるベンチを設け、空間提供による地域貢献に配慮しました。

CASBEE®新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築 (新築) 2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新潟市中央区米山三丁目計画	階数	地上15階
建設地	新潟県新潟市中央区米山三丁目584番5	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	210 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 竣工	評価の実施日	2017年5月18日
敷地面積	1,343 m ²	作成者	INA新建築研究所
建築面積	572 m ²	確認日	2017年5月18日
延床面積	6,320 m ²	確認者	INA新建築研究所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>前面道路との離隔を確保した建物配置とし、落ち着いた居住空間としました。また、歩行空間としての整備が図られる大通りに沿って豊かな植栽を設けることで、良好な街並みの形成に配慮しました。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>化学汚染物質の発生に配慮した建築材料を選定し、居住者の健康に配慮しています。また、室内騒音レベルに配慮し、快適な居住空間としました。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>住宅性能表示制度の劣化対策等級3に相当する耐用年数の長い部材を採用するとともに、維持管理に配慮する計画としました。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地内を極力緑化するとともに、ベンチによる待ち合わせの場、憩いの場を確保することで居住者の快適性に配慮しました。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>住宅性能表示制度の断熱等性能等級4に相当する高水準の断熱性を確保し、建物外皮の熱負荷抑制に配慮しました。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型便器の採用により資源の浪費を抑える計画としました。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCCO₂を抑制し、地球温暖化への影響に配慮しました。また、雨水貯留槽の任意設置により、雨水排水負荷の低減に配慮しました。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される